

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 赤崎 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・書く能力に関する問題については、よくできていた。 ・言語についての知識・理解・技能に関する問題(学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題・敬語の問題・主語・述語の関係を考える問題)に課題が見られた。
	よくできた問題	物語を書くときの構成の工夫について考える問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	文中の主語と述語の関係に注意して正しい文を書く問題は、正答率が低かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・無回答率は、全国平均に比べ低かった。何か答えを書こうという意欲が見受けられた。 ・資料から、必要な情報を取捨選択し、それらを関係付け条件に合うように書く問題に課題が見られた。
	よくできた問題	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして書く問題は、正答率が低かった。
算数A	全体的な傾向や特徴など	・量と測定に関する問題(単位量あたりの大きさ、面積、角の大きさ)については、よくできていた。無回答もほとんどない。 ・数と計算(小数の除法に関する文章問題)、図形(空間の位置を求める問題、円周率に関する問題)に関する問題に、課題が見られた。
	よくできた問題	単位量あたりの大きさを求める式と答えの意味を理解する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	0.4m分の重さが分かっているとき、1m分の重さを求める式を選ぶ問題の正答率が低かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	・無回答率は、全国平均に比べ低い。何か答えを書こうという意欲が見受けられた。 ・数量関係(グラフから分かることを読み取る問題、分配法則に関する問題)に関する問題に課題が見られた。
	よくできた問題	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだす問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	32、40の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いて式に表す問題は、正答率が低かった。
理科	全体的な傾向や特徴など	・無回答の問題がなかった。何か答えを書こうという意欲が見受けられた。 ・自分の予想があっていたら、実験結果はどうなるか考える問題や、実験結果を基に考察し、その内容を記述する問題に課題が見られた。
	よくできた問題	乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	土地の侵食について、自分が立てた予想が正しいならば、どのような結果が得られるか考え、実験計画を立てる問題の正答率は低かった。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>・将来の夢や目標をもっていると答える児童は、全国に比べても高い数値にある。</p> <p>・家で宿題をしていると答えた児童は100%である。しかし、家で計画を立てて勉強していると答えた児童は約40%、平日の勉強量が1時間以上と答えた児童が約30%で、どちらも全国に比べてかなり低い。</p> <p>・学習中の友達との話し合い活動の有効性を感じている児童は、全国と同程度である。しかし、理科の学習で、自分の考えを周りの人に説明したり発表したりできていると答えた児童は、約30%、自分の考えがうまく伝わるように、話の組立て等を工夫して発表していたと答えた児童は約45%と全国に比べ、低い結果となった。自分の考えを説明することが難しいと感じていることが、全国に比べ高いということが分かった。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・「話し合う活動」と「書く活動」を一単位時間に必ず位置付ける。特に「書く活動」の習慣化を目指す。
- ・学力向上のための特設時間(朝自習)「赤崎タイム」を継続して実施する。
- ・過去問題、アシストシート、学力定着サポートシステムの活用を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「赤崎小家庭学習の手引き」等を用いて、家庭学習の内容や時間等を引き続き家庭に啓発していく。
- ・全国学力・学習状況調査、CRTの課題と取組を保護者へ周知する。(学校だより・ホームページ)
- ・小6スクリーニングによる中学校教師の授業参観を行い、課題解決の方法を共に探る研修会を実施する。